

【平成25年度次新規事業その1】

フッ化物洗口導入モデル事業について

○位置づけ

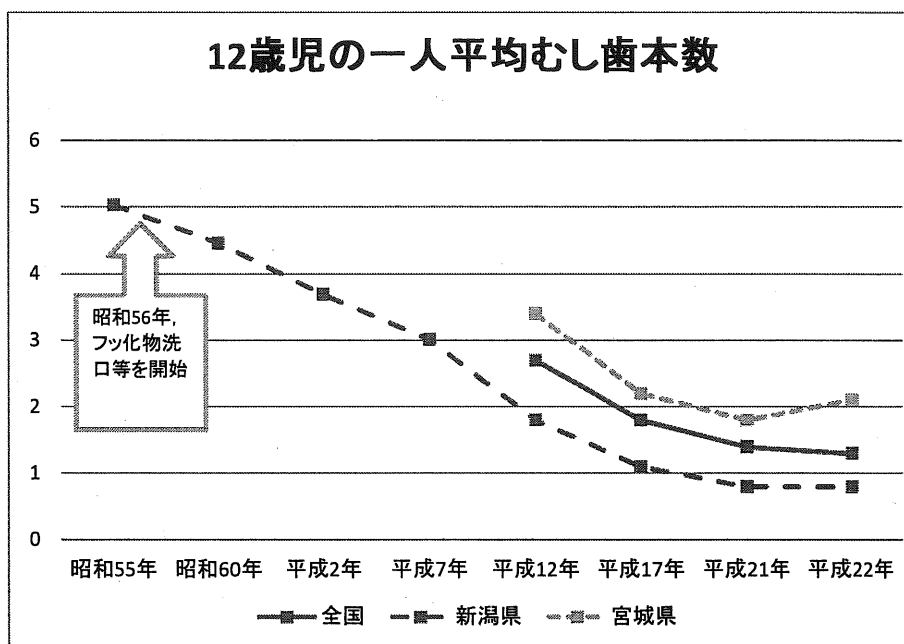
「宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画」において位置づけられている事業である。

○本県の現状

本県の子どもの一人平均むし歯本数は、各種の施策を展開してきたこともあって確実に減少傾向を続けているが、全国の状況と比較するとまだ下位の状況が続いている。

宮城県のこどもの一人平均むし歯本数

項目	平成14年度	平成18年度 (全国順位)	平成22年度 (全国順位)
1歳6ヶ月児	0.2	0.1 (36位)	0.1 (36位)
3歳児	2.3	1.8 (42位)	1.2 (39位)
12歳児	2.7	2.3 (41位)	2.1 (44位)



○趣旨・目的

幼児期からの歯と口腔の健康づくりが必要であることを保護者に啓発するとともに、そのための支援事業として、市町村が実行可能な、フッ化物を活用した幼児歯科保健対策の事業モデルを提供することで、市町村における幼児歯科保健対策を促進する。

○事業内容

1. フッ化物洗口についての啓発パネルを作成し、保健所で啓発普及事業に活用
2. フッ化物洗口に係る市町村研修会の開催（機運の醸成）
3. 4・5歳児へのフッ化物洗口に関するチラシ及びマニュアルの印刷及び配布
4. 事業への参加申込み施設の職員に対する研修
5. 事業への参加申込み施設の保護者に対する説明会での技術的支援
6. 事業を実施する施設が導入のために要する費用の補助

○事業の実施期間

平成25年度から平成29年度までの5ヶ年事業とする。

～新潟県の歯科保健の取組について～

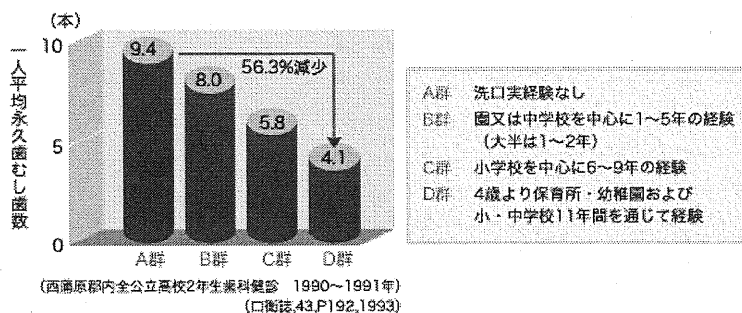
- 昭和56年から全国に先駆けて、学校等における集団フッ化物洗口を中心としたむし歯予防対策を積極的に推進してきている。
- 平成22年度学校保健統計調査での12歳児一人平均むし歯本数は0.8本（宮城県2.1本）であり、11年連続で全国一位を保っている。

以下は新潟県HPから

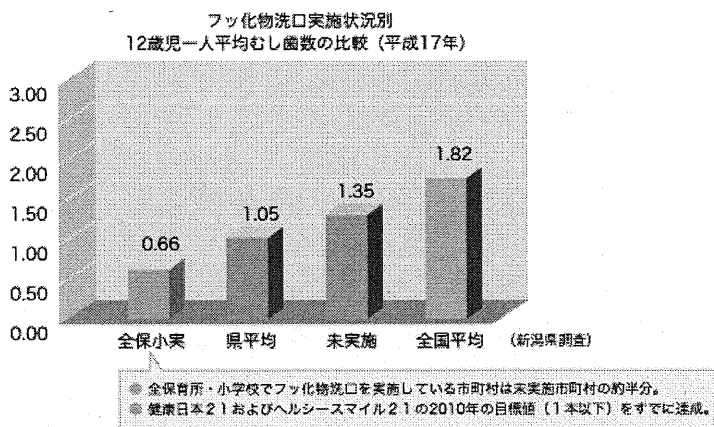
フッ化物洗口の効果

フッ化物洗口は、むし歯を半分以下に予防します。
 【4歳頃から中学校卒業時まで続けることがポイントです！】

【フッ化物洗口経験別に見た一人平均永久歯むし歯数】



【フッ化物洗口実施市町村の12歳児一人平均むし歯数は、未実施市町村の約半分】



※全保小実施及び未実施市町村は、旧市町村単位の集計(110市町村)

フッ化物洗口を新たに実施することにより、むし歯は次第に減少し、以前から実施していた市町村と同じレベルまで減少します。

フッ化物洗口実施有無別にみた一人平均むし歯数(12歳)の推移

